

河北新報

へいあんグループ

冠婚葬祭から
快適生活まで あいある

仙台市青葉区錦町1-6-34 TEL 022-227-3336
www.heian-sendai.co.jp

国連防災世界会議 仙台で開幕

震災の教訓 世界へ

国際的な防災の行動指針を決める第3回国連防災世界会議が14日、仙台市青葉区の仙台国際センター展示棟で始まった。東日本大震災の被災地で、世界的に多発する大規模災害に備えた議論を展開する。

(3面に関連記事)

最終日の18日に採択される新指針は、2005年の前回会議で策定された「兵庫行動枠組」の後継。実効性確保のため、減

災の具体的な数値目標を初めて設定できるかが焦点となる。

開会式には天皇、皇后両陛下も出席された。奥山恵美子市長は「多大な犠牲が出た震災の経験と教訓を指針に役立てることが、震災時に受けた支援への恩返しになる」とあいさつした。

安倍首相は式後に「防災の知見と技術による国際社会への貢献を力強く進めよう」と演説。今後4年で40億ドル(約4900

億円)を投じ、インフラ整備や人材育成など、ハード、ソフト両面で各国の防災対策を支援する「仙台防災協力イニシアチブ」を発表した。

本会議には首脳級を含め100超の国や地域の代表が出席。期間中は350を超えるシンポジウムなどの一般公開事業も市内を中心に開催され、延べ4万人以上の参加が見込まれる。

歩み伝える

メディアテーク

14日開幕した国連防災世界会議の関連イベント「東北防災・復興パビリオン」が仙台市青葉区のせんだい



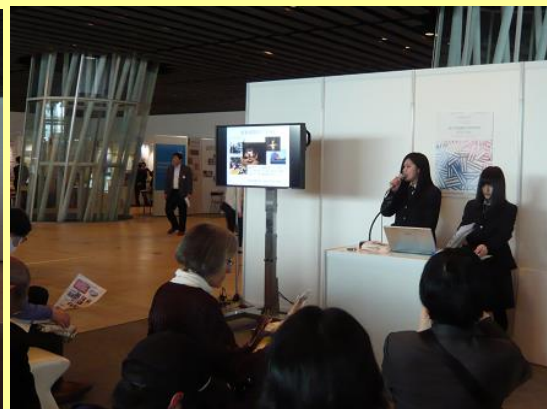
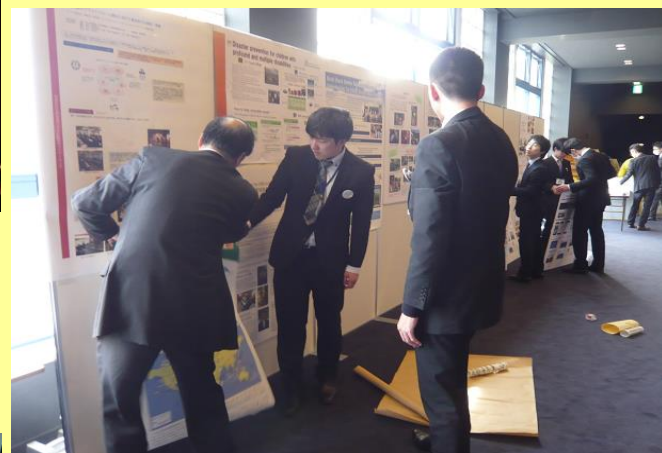
100超の国や地域の代表が出席して開幕した国連防災世界会議14日午前11時45分ごろ、仙台市青葉区の仙台国際センター展示棟

新聞やTV報道の中で唯一疑問に思ったのは、開会式に出席した安倍首相が式後の会見で、今後4年で40億ドルを投じ、インフラ整備や人材育成などハード、ソフト両面で各国の防災対策を支援する「仙台防災協力イニシアチブ」を発表したことである。恐らく会議に弾みをつけようと単純に発想したのであろうが、安易に膨大な金額を提示するのはこの人の悪い癖である。

宮城教育大学の国連防災世界会議への参加状況



宮城教育大学が文科省・日本ユネスコ国内委員会と共同主催した総合フォーラム『持続可能な開発のための教育を通じた防災・減災の展開～より良い子どもたちの未来に向けて～』は千人以上の参加者を得て大変好評であった。

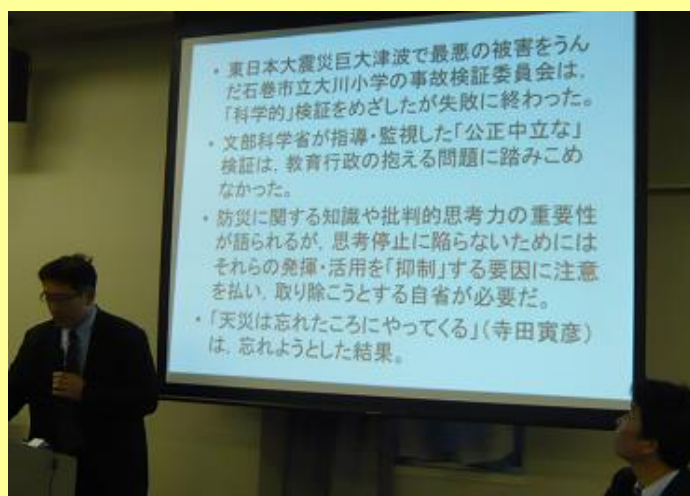


せんだいメディアテークで開催したセミナー『被災地の教員養成大学として歩んだ4年～宮城教育大の軌跡』のスナップ

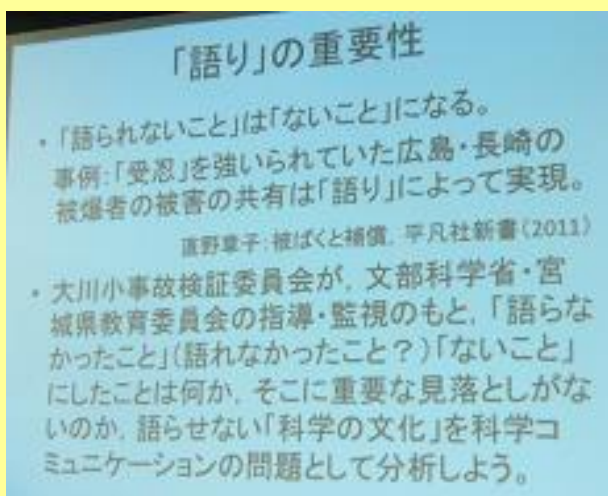




大川小学校の津波災害についてのフォーラムは満席の上熱気に包まれていた。

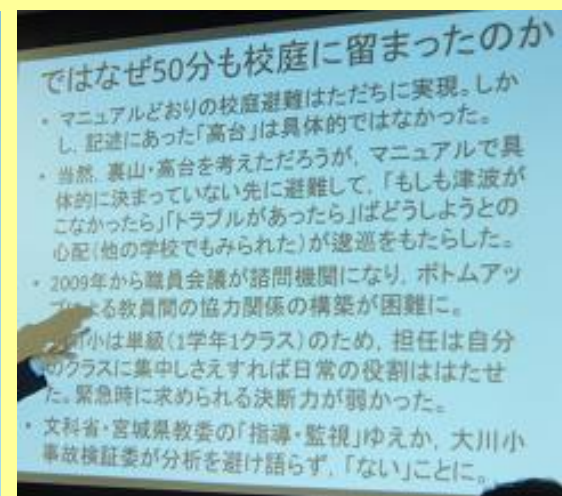


- ・東日本大震災巨大津波で最悪の被害をうんだ石巻市立大川小学の事故検証委員会は、「科学的」検証をめざしたが失敗に終わった。
- ・文部科学省が指導・監視した「公正中立な」検証は、教育行政の抱える問題に踏みこめなかった。
- ・防災に関する知識や批判的思考力の重要性が語られるが、思考停止に陥らないためにはそれらの発揮・活用を「抑制」する要因に注意を払い、取り除こうとする自省が必要だ。
- ・「天災は忘れたころにやってくる」(寺田寅彦)は、忘れようとした結果。



「語り」の重要性

- ・「語られないこと」は「ないこと」になる。
事例:「受忍」を強いられていた広島・長崎の被爆者の被害の共有は「語り」によって実現。
直野章子、被ばくと補償、平凡社新書(2013)
- ・大川小事故検証委員会が、文部科学省・宮城県教育委員会の指導・監視のもと、「語らなかったこと」「語れなかったこと?」「ないこと」にしたことは何か、そこに重要な見落としががないのか、語らせない「科学の文化」を科学コミュニケーションの問題として分析しよう。



ではなぜ50分も校庭に留まったのか

- ・マニュアルどおりの校庭避難はただちに実現。しかし、記述にあった「高台」は具体的ではなかった。
- ・当然、裏山・高台を考えたろうが、マニュアルで具体的に決まっていなかった先に避難して、「もしも津波がこなかったら」「トラブルがあったら」はどうしようとの心配(他の学校でもみられた)が逡巡をもたらした。
- ・2009年から職員会議が諮問機関になり、ボトムアップによる教員間の協力関係の構築が困難に。
「小は単級(1学年1クラス)のため、担任は自分のクラスに集中しさえすれば日常の役割ははたせた。緊急時に求められる決断力が弱かった。
- ・文科省・宮城県教委の「指導・監視」ゆえか、大川小事故検証委が分析を避け語らず、「ない」ことに。



14日夕刻からは市民活動サポートセンターで開催された「大川小学校事故の真相はなぜ解明されないのか」と云った趣旨のフォーラムに参加した。講演は当事者側から佐藤敏郎氏と西條剛央氏の他にコメンテーター3氏。会場は立見席まで一杯になるほどの熱気に包まれていた。結局のところ、事故検証委員会は失敗に終わったとする関係者の集まりであったようである。“学校周辺の金谷地区の被害が(も)なぜ同じように大きかったのか”が解明されない限り大川小学校の問題だけを見ていたのでは先へ進めないのではないかと思われたので、終了後にアンケートで意見を求められた際に、そのような感想を記入して提出してきた。